

日立エントリーブレードサーバ  
HA8000-bdシリーズ

**HITACHI**  
Inspire the Next

# Webコンソール 操作ガイド

## HA8000-bd/BD10X2

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。

このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

2012 年 2 月（初版）（廃版）  
2013 年 4 月（第 2 版）

---

## 重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いません。

---

## システム装置の信頼性について

ご購入いただきましたシステム装置は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は意図されていませんし、保証もされていません。このような高信頼性を要求される用途へは使用しないでください。高信頼性を必要とする場合には別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

一般事務用システム装置が不適当な、高信頼性を必要とする用途例  
・ 化学プラント制御 ・ 医療機器制御 ・ 緊急連絡制御など

---

## 規制・対策などについて

### □ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

---

## 登録商標・商標について

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Core、Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

そのほか、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

---

## 版權について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

© Hitachi, Ltd. 2012, 2013. All rights reserved.

# はじめに

このたびは日立のブレードサーバ HA8000-bd (以下 システム装置) を  
お買い上げいただき、誠にありがとうございます。



このマニュアルは、サーバブレード BD10 (以下 サーバブレード) に  
搭載されているリモートマネジメント機能「Web コンソール」の操作方  
法や設定項目について記載しています。

ハードウェアに関する説明や制限事項、お問い合わせ先などについては、  
システム装置の『ユーザズガイド』に記載されています。ご使用にな  
る前に『ユーザズガイド』をご参照ください。また、記載されている  
安全上の注意事項をよく読み、必ず守ってください。

## マニュアルの表記

### □ マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

	システム装置の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項 を示します。
	システム装置を活用するためのアドバイスを示します。

### □ システム装置の表記について

このマニュアルでは、ブレードサーバ HA8000-bd をシステム装置と表記します。なお、シス  
テム装置を装置と略して表記することがあります。

また、サーバブレード BD10 をサーバブレードと表記します。サーバブレードを区別する場合  
にはモデル名称の BD10X2 と表記します。

# 目次

重要なお知らせ .....	3
システム装置の信頼性について .....	3
規制・対策などについて .....	3
輸出規制について .....	3
登録商標・商標について .....	3
著作権について .....	4
<b>はじめに .....</b>	<b>5</b>
マニュアルの表記 .....	5
マークについて .....	5
システム装置の表記について .....	5
<b>目次 .....</b>	<b>6</b>
<b>Web コンソールの使用方法 .....</b>	<b>7</b>
機能概要 .....	7
使用上の注意事項 .....	7
BMC への接続 .....	8
BMC ネットワーク設定 .....	10
Web コンソールのログイン・終了 .....	11
ログイン .....	11
終了方法 .....	13
Web コンソールによる初期設定 .....	13
ユーザアカウントの設定 .....	13
リモートコンソールのマウスモードの設定 .....	18
BMC 時刻の設定 .....	19
ネットワークの設定 .....	21
Web コンソールの機能 .....	23
機能一覧 .....	23
操作に必要なロール .....	24
Web コンソールの設定項目 .....	25
「サーバ運用」タブ .....	25
「サーバ設定」タブ .....	27
「メンテナンス」タブ .....	38
「ログ」タブ .....	45

# Web コンソールの使用方法

ここでは、Web コンソールを使用するための接続方法や初期設定、および Web コンソールの機能について説明します。

## 機能概要

本システム装置は、マザーボードに搭載される BMC (Baseboard Management Controller) に、サーバブレードの稼働状況監視や電源制御を行う機能を付加しております。また、LAN 接続によりリモートアクセスし、BMC に対する初期設定を行うことができます。リモートアクセスは標準機能として提供される「Web コンソール」を使用します。

## 使用上の注意事項

### ■ サーバ管理設定のバックアップ

サーバブレードの管理のために使用する設定データは、障害が発生した場合の復旧作業時に必要となります。

Web コンソールを使用する場合は障害発生時に備え、設定変更時にサーバ管理設定のバックアップを実施し、紛失しないよう大切にデータを保管してください。

詳細は「[「サーバ管理設定のバックアップ」画面](#)」P.41 をご参照ください。

### ■ BMC のネットワーク設定

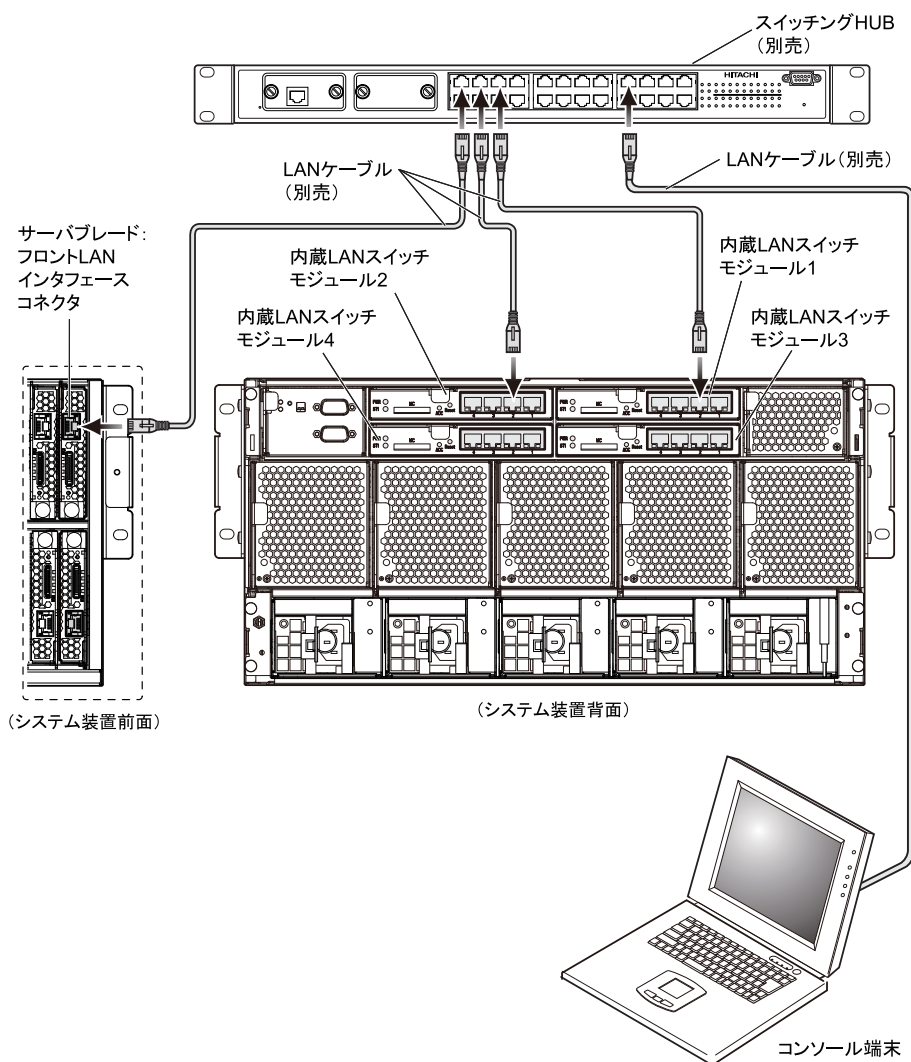
Web コンソールの使用には BMC のネットワーク設定が必要です。ご使用前に使用環境に合わせて設定してください。

詳細は「[BMC への接続](#)」P.8 をご参照ください。

## BMC への接続

Web コンソールを使用するために、システム装置の内蔵 LAN スイッチモジュールまたはサーバブレードのフロント LAN インタフェースコネクタと、コンソール端末を LAN ケーブルで接続します。接続にあたり、次のものが必要になります。

- コンソール用の端末（クライアント）（100BASE-TX 対応）
- UTP-5 以上の LAN ケーブルおよびスイッチング HUB（100BASE-TX 対応）
- HTTP のクライアントソフトウェア（Internet Explorer（Ver.6 以降））





補足

- コンソール端末とマネジメントインタフェースコネクタ間を LAN ケーブルで直結する場合、端末側の仕様によってはクロス ケーブルを使用する必要があります。
- BMC を起動(システム装置に AC 供給)する場合、LAN ケーブルを接続し、スイッチング HUB もしくはコンソール端末の電源を入れた状態にしてください。  
BMC 起動後に LAN ケーブルを接続すると、BMC が応答しない場合があります。この場合、LAN ケーブルの接続後、一度システム装置の電源コードを抜いて 30 秒待ってから電源コードを再接続してください。

BMC のネットワークの工場出荷時設定は次のとおりです。

項目	工場出荷時設定
IP アドレス	0.0.0.0
サブネットマスク	0.0.0.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
HTTP	有効

また、Web コンソールを使用する前に、次の内容についてコンソール端末（クライアント）のブラウザ設定を確認してください。設定が適切でない場合、Web コンソールが正常に動作しません。

- ポップアップの禁止設定を解除してください。  
ブラウザの機能のほか、ツールバーやアプリケーションによる設定も解除してください。
- Java スクリプトを有効にしてください。

補足

- BMC は、障害調査のために保守員が保守用端末を接続し、情報収集させていただく場合があります。
- BMC から得られる情報は障害調査および解析に有益です。ご使用のシステム環境にかかわらず、いつでも BMC が使用できるようネットワーク設定を行っていただくことをお勧めします。
- BMC をネットワークに接続する場合、IP アドレスが重複していないことを確認してから接続してください。ネットワーク上に IP アドレスが重複する機器が存在する場合、サーバブレードに障害が発生します。  
複数台のサーバブレードの BMC を同一のネットワークに接続する場合は、1 台ずつ BMC のネットワーク設定を変更してから接続してください。  
→ [「ネットワークの設定」 P.21](#)

## BMC ネットワーク設定

BMC のネットワーク（IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ）は、工場出荷時「[工場出荷時設定](#)」P.9 のとおり設定されています。

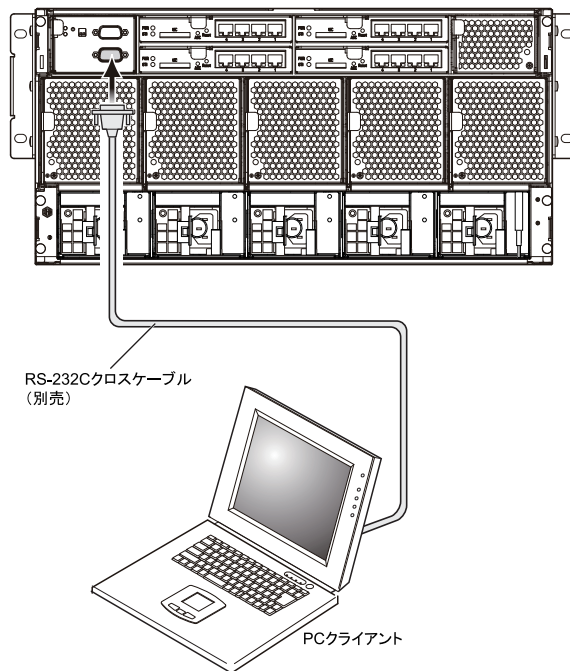
BMC の IP アドレスは、接続するネットワーク環境においてユニークな値を設定してください。OS に設定する IP アドレスと同じ値を設定しないでください。同一にすると、BMC と OS の通信が競合して正常に通信できないことがあります。

BMC のネットワーク設定変更は、コントロールボックスモジュールから LC コマンドを使用して設定してください。

また、BMC のネットワーク接続モジュールの変更は、コントロールボックスモジュールから LP コマンドを使用して設定してください。工場出荷時は、内蔵 LAN スイッチモジュール 1 および内蔵スイッチモジュール 2 が接続モジュールに設定されています。

コントロールボックスモジュールの操作は、シリアル接続された PC クライアント（セットアップ端末）が必要です。

次のとおり、コントロールボックスモジュールのコントロールボックス設定用ポート（SER CTRL）と PC クライアントを、RS-232C クロスケーブルで接続します。



詳細については、『ユーザーズガイド』第 6 章「コントロールボックスモジュールの設定」をご参照ください。

# Web コンソールのログイン・終了

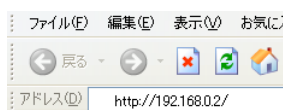
Web コンソールは次の方法でログイン・終了します。

## □ ログイン

- 1 サーバブレードの電源を入れます。
- 2 クライアントのブラウザを起動します。
- 3 アドレスに「<http://<BMCのIPアドレス>>」を入力します。

IP アドレスは、「[BMC ネットワーク設定](#)」P.10 で設定した値を入力します。

(例) BMC の IP アドレスが 192.168.0.2 の場合



- 4 接続に成功するとブラウザにログイン画面が表示されます。



### 補足

- サーバブレードの出荷時設定では、ログイン画面の「ユーザ名」および「パスワード」に対して、"user01"、"pass01" を入力することで管理者としてログインできます。
- サーバブレードに上記と異なるユーザアカウントの設定がされている場合、この方法ではログインできません。設定済みの「ユーザ名」および「パスワード」を入力してログインしてください。
- セキュリティ上、出荷時設定と異なるユーザアカウントの設定を行うことを強く推奨いたします。→ [「ユーザアカウントの設定」](#) P.13

- 5 ログイン画面でユーザ名 / パスワードを入力します。  
ユーザ認証に成功しログインすると、「サーバ情報」メニュー画面が表示されます。



上部タブ、および左側のツリーメニューから目的の項目を選択することで、設定の表示や変更を行うことができます。

### 補足

Web コンソールに同時にログインできるのは2ユーザまでとなります。すでに2ユーザがログインしている場合、次の画面が表示されます。



Web コンソールにログインした状態で30分以上操作が行われなかった場合、自動的にログアウトされます。

## □ 終了方法

画面右端にある[ログアウト] ボタンを押すことで、Web コンソールからログアウトできます。

### 補足

ログアウトせずにブラウザを閉じた場合、30 分後に自動的にログアウトされるまでユーザがログインしている状態となります。このため、ログアウトせずにブラウザを閉じることを繰り返すと、30 分経過するまで新たにログインできなくなります。  
ブラウザを閉じる前に、右上のボタンからログアウトを行ってください。

## Web コンソールによる初期設定

ここでは、Web コンソールによるサーバブレードの初期設定について説明します。  
初期設定が必要なデータは次のとおりです。

- ユーザアカウントの設定
- リモートコンソールのマウスモードの設定
- BMC 時刻の設定
- ネットワークの設定

## □ ユーザアカウントの設定

サーバブレードをリモート操作するための、ユーザアカウントを設定します。

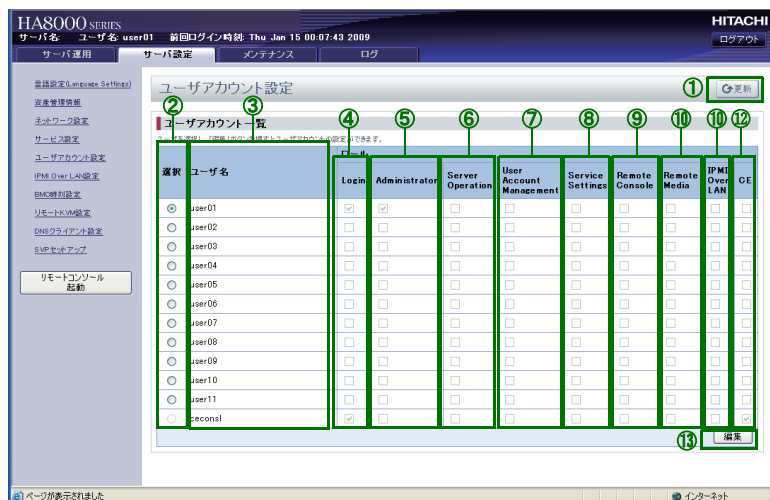
各登録ユーザには、ユーザ名、パスワードおよびサーバブレードの操作を行うための権限とアカウントの有効 / 無効の設定を行うことができます。

設定は「ユーザアカウント一覧」画面から行います。

上部タブから[サーバ設定]を選択し、左側のツリーメニューから「ユーザアカウント設定」を選択して表示します。

## 「ユーザアカウント一覧」画面

アカウントの設定情報を一覧で表示します。



#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	ユーザアカウント情報の再読み込み
②	選択	ユーザアカウント選択用ラジオボタン
③	ユーザ名	ユーザアカウント名称
	ロール	
④	Login	ユーザアカウントに付与されているロールを表示します。
⑤	Administrator	
⑥	Server Operation	
⑦	User Account Management	
⑧	Service Settings	
⑨	Remote Console	
⑩	Remote Media	
⑪	IPMI Over LAN	
⑫	CE	
⑬	[編集] ボタン	「ユーザアカウントの編集」画面へ遷移します。ただし、ラジオボタンにチェックがついていない場合は遷移しません。

## ■ ロール

ユーザアカウントにロールを付与することにより、ユーザが行える操作を設定できます。それぞれのロールの意味は次のとおりです。

#	ロール名	説明
1	Login	サーバブレードの提供するサービスにログインするためのロールです。本ロールを持たないユーザは無効とされ、各サービスにログインできません。
2	Administrator	管理者用のユーザ権限を表すロールです。本ロールを持つユーザはサーバブレードの機能のうち、BMC 再起動を除くすべての操作を行うことができます。
3	Server Operation	サーバブレードの電源、リセット操作を行うためのロールです。
4	User Account Management	ユーザアカウントの設定を行うためのロールです。
5	Service Settings	サーバブレードの提供するサービスの設定を行うためのロールです。
6	Remote Console	リモートコンソール機能による、コンソール端末へのサーバブレード画面の表示およびキーボード、マウスの遠隔操作を行うためのロールです。
7	Remote Media	リモートフロッピーディスク機能、リモート CD/DVD 機能を使用するためのロールです。
8	IPMI Over LAN	IPMI Over LAN 設定を行うためのロールです。BMC と IPMI 通信を行うユーザを設定可能にします。
9	CE	保守作業用のユーザ権限を表すロールです。“ceconsl” 以外のユーザに本ロールを付与することはできません。

## ■ ユーザアカウントの初期設定

ユーザアカウントの初期設定は次のとおりです。

#	ユーザ名	パスワード	ロール	説明
1	user01	pass01	Login Administrator	サーバブレード管理者用ユーザです。ロールの変更を行うことはできません。
2	user02	pass02	なし	一般ユーザです。
3	user03	pass03		
4	user04	pass04		
5	user05	pass05		
6	user06	pass06		
7	user07	pass07		
8	user08	pass08		
9	user09	pass09		
10	user10	pass10		
11	user11	pass11		
12	ceconsl	出荷時に設定されます。	Login CE	保守作業用ユーザです。保守員が保守作業時に使用することがあります。設定の変更を行うことはできません。

ユーザアカウントを変更するには、「ユーザアカウント一覧」画面において変更したいユーザアカウントのラジオボタンをチェックし、[編集] ボタンをクリックします。  
選択されたユーザアカウントの設定を行う「ユーザアカウントの編集」画面に遷移します。

## 「ユーザアカウントの編集」画面

ユーザアカウントの設定変更を行います。

#	項目名	説明
①	ユーザ名	ユーザアカウント名称（最大 32 文字）
②	パスワード	パスワードの入力（最大 32 文字）
	パスワード（確認）	パスワードの再入力
③	ロール	
	Login	チェックされたロールがユーザアカウントに付与されます。
	Administrator	
	Server Operation	
	User Account Management	
	Service Settings	
	Remote Console	
	Remote Media	
	IPMI Over LAN	
④	[戻る] ボタン	編集した内容を無効とし、ユーザアカウント一覧画面に戻ります。
⑤	[リセット] ボタン	編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
⑥	[設定変更] ボタン	編集した内容を有効とし、確認画面に遷移します。

・・・  
補足

- ユーザ名は入力必須項目です。
- パスワードを設定する場合は、パスワードとパスワード(確認)は同じ値を入力してください。



## 補足

- ユーザアカウントを編集する場合にパスワードは必須項目ではありません。入力しない場合はパスワード変更なしとして扱います。
- 管理者用ユーザのロールを変更することはできません。
- ロールの変更が行えるのは “Administrator” ロールを持ったユーザのみです。
- “cecons1” は保守員用のユーザアカウントです。保守サービスを受ける場合に保守員が本ユーザアカウントを使用することがあります。本ユーザアカウントの設定は変更できません。

〔設定変更〕 ボタンをクリックすると、次の確認画面が表示されます。

#	項目名	説明
①	〔戻る〕 ボタン	編集した内容を無効とし、「ユーザアカウントの編集」画面に戻ります。
②	〔確認〕 ボタン	編集した内容を有効とします。

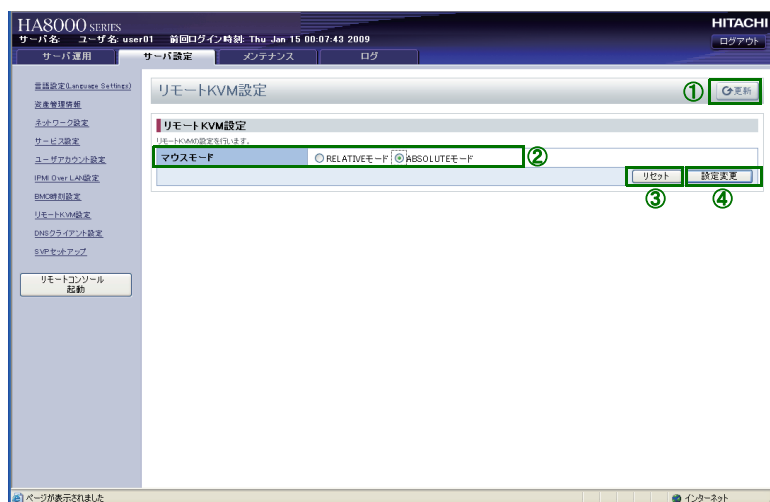
## □ リモートコンソールのマウスモードの設定

サーバブレードをリモートコンソールで操作するためのマウスモードを設定します。

設定は「リモート KVM 設定」画面から行います。

上部タブから「サーバ設定」を選択し、左側のツリーメニューから「リモート KVM 設定」を選択して表示します。

インストールする OS に合わせて、マウスモードを設定してください。



#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	マウスモード *1	RELATIVE モード： サーバブレード画面上のマウスカーソルにより、リモートコンソールのマウス操作を行うモードです。ABSOLUTE モードがサポートされていない OS で使用する場合に設定してください。 ABSOLUTE モード（推奨）： コンソール端末のマウスカーソルによりリモートコンソールのマウス操作を行うモードです。
③	[リセット] ボタン	編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
④	[設定変更] ボタン	編集した内容を有効とし、確認画面に遷移します。

\*1: 工場出荷時は「ABSOLUTE モード」に設定しています。



制限

マウスモードを RELATIVE モードに設定された場合、マウスカーソルがずれて表示されることがあります。マウスカーソルを非表示にすることで現象を回避できます。詳細は『リモートコンソール操作ガイド』をご参照ください。



補足

リモートコンソールの使用方法については、『リモートコンソール操作ガイド』をご参照ください。

## □ BMC 時刻の設定

BMC の時刻を設定します。

設定は「時刻およびタイムゾーンの設定」画面から行います。

上部タブから「サーバ設定」を選択し、左側のツリーメニューから「BMC 時刻設定」を選択して表示します。

補足

サーバブレードの運用前に、時刻設定として Web コンソールおよび、セットアップメニューの両方を実施してください。セットアップメニューの時刻設定は、製品に添付されるマニュアルをご参照ください。

#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	時計合わせ方式 *1	NTP を使用しない： 起動時にシステム（BIOS）が BMC の時刻を更新します。 起動中、BMC の時刻は OS の時刻とは異なり単独の時計機能となります。 数ヶ月に一度程度、Web コンソールの「BMC 時刻設定画面」により時刻を確認し、誤差が大きい場合には修正を行ってください。 NTP による時刻合わせを行う： BMC の時刻は外部 NTP サーバの配信する時刻に同期します。 NTP サーバのアドレスを、項目④により設定してください。
③	年月日 時刻	年月日、および時刻は、現地の時刻を入力してください。
④	NTP 設定	項目②「時計合わせ方式」を「NTP による時刻合わせを行う」に設定する場合に、NTP サーバの IP アドレスを入力します。
⑤	タイムゾーン	サーバブレードの設置されている現地のタイムゾーンを、サーバブレードで使用している OS に合わせて設定してください。
⑥	[リセット] ボタン	編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
⑦	[設定変更] ボタン	編集した内容を有効とし、確認画面に遷移します。

\*1: 工場出荷時は「NTP を使用しない」に設定しています。

〔設定変更〕 ボタンをクリックすると、次の確認画面が表示されます。

HA000 SERIES  
サーバ名 ユーザ名 user01 前回ログイン時刻 Thu Jan 15 00:07:43 2009 HITACHI  
ログアウト

サーバ運用 サーバ設定 メンテナンス ログ

監視設定(BMC/Device Settings)  
遠隔管理機能  
ネットワーク設定  
サービス設定  
ユーザアカウント設定  
IPMI Over LAN設定  
BMC通信設定  
リモートコンソール設定  
DIBクライアント設定  
SNMPエージェント  
リモートコンソール 起動

BMC時刻

時刻およびタイムゾーンの設定(確認)  
(確認)ボタンを押すと、時刻およびタイムゾーンの設定が以下の内容に変更されます。

時刻合わせ方式	NTPを使用しない。
年月日(現地時間) (mm/dd/yy)	01/15/09
時刻(現地時間) (hh:mm:ss)	00:17:08
NTP設定	NTPサーバ1 NTPサーバ2
タイムゾーン (UTC+/-hh:mm)	+00:00

戻る 確認

① ②

ページが表示されました インターネット

#	項目名	説明
①	〔戻る〕 ボタン	編集した内容を無効とし、BMC 時刻設定画面に戻ります。
②	〔確認〕 ボタン	編集した内容を有効とします。

## □ ネットワークの設定

工場出荷後、コントロールボックスモジュールの LC コマンドで BMC の IP アドレスを設定したあとは、Web コンソールからも IP アドレスの設定変更が可能です。

BMC ネットワーク設定を変更すると、一度ネットワークが切断され、以後は設定変更後の環境でのみ BMC ネットワークに接続が可能になります。BMC ネットワークの設定変更を行う場合は、設定内容に誤りがないことをご確認ください。

また、サーバブレードに接続できるネットワーク機器の IP アドレスを制限する設定を行うことができます。サーバブレードに接続を許可するネットワーク機器の IP アドレスは、4 つまで指定することができます。

設定は「ネットワーク設定」画面から行います。

上部タブから [サーバ設定] を選択し、左側のツリーメニューから「ネットワーク設定」を選択して表示します。



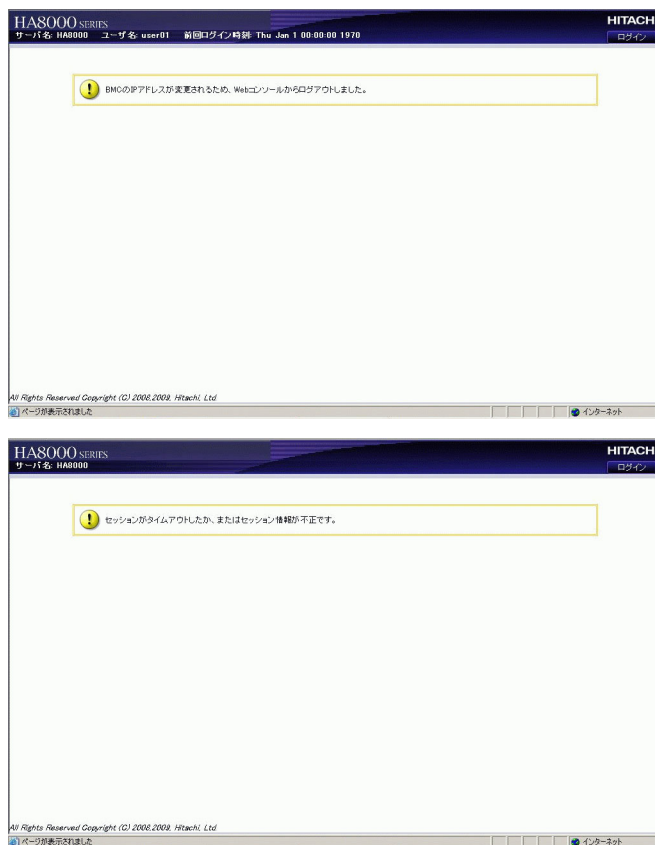
#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	MAC アドレス (表示のみ) IP アドレス ネットマスク デフォルトゲートウェイ DHCP 使用有無	サーバブレードの BMC ネットワークを設定します。 BMC の初期 IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ設定は、「 <a href="#">工場出荷時設定</a> 」P.9 をご参照ください。 DNS の設定については、「 <a href="#">DNS クライアント設定</a> 」画面 P.37 をご参照ください。
③	IP アドレス制限 *1	接続 IP アドレス制限機能の有効、無効を設定します。
④	接続許可 IP アドレス 1～4	サーバブレードへの接続を許可する IP アドレスを入力します。単一の IP アドレスまたはサブネットを設定することができます。 (例) 単一 IP アドレス : 192.168.10.1 サブネット : 192.168.10.0/255.255.255.0 または 192.168.10.0/24
⑤	[リセット] ボタン	編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
⑥	[設定変更] ボタン	編集した内容を有効とし、確認画面に遷移します。

\*1: 工場出荷時は「接続を拒否しない」に設定しています。

〔設定変更〕 ボタンをクリックすると、次の確認画面が表示されます。



〔確認〕 ボタンをクリックすると IP アドレスが変更されるため、Web コンソールからログアウトされ、サーバブレードとの接続が切断されます。



クライアントのブラウザのアドレスに変更後の IP アドレスを入力し、再接続してから Web コンソールにログインしなおしてください。

# Web コンソールの機能

ここでは、Web コンソールから設定できる機能について説明します。

## □ 機能一覧

Web コンソールが提供する機能は次のとおりです。

#	メニュー	機能
「サーバ運用」タブ		
1	サーバ情報	サーバブレードの情報を表示する。
2	電源および LED	電源、リセット操作および LED 状態の表示を行う。
「サーバ設定」タブ		
3	言語設定	Web コンソールで使用する言語の設定を行う。
4	資産管理情報	資産情報の設定を行う。
5	ネットワーク設定	ネットワーク設定の表示および接続制限の設定を行う。
6	サービス設定	サーバブレードの提供するサービスの有効化 / 無効化およびポート番号の設定を行う。
7	ユーザアカウント設定	ユーザアカウントの表示および設定を行う。
8	IPMI Over LAN 設定	BMC と通信を行う IPMI ユーザの設定を行う。
9	BMC 時刻設定	BMC 時刻、タイムゾーンの表示および設定を行う。
10	リモート KVM 設定	リモートコンソールのマウスモードの設定を行う。
11	SSL サーバ設定	Web コンソール上で SSL 通信を行うための設定を行う。
12	DNS クライアント設定	DNS サーバの設定を行う。
13	SVP セットアップ *1	SVP アラートの通報先の表示および設定を行う。
「メンテナンス」タブ		
14	BMC ファームウェア管理	BMC ファームウェアの情報表示および更新を行う。
15	サーバ管理設定のバックアップ	サーバブレード設定のバックアップを行う。
16	サーバ管理設定のリストア	サーバブレード設定のリストアを行う。
17	BMC 再起動 *2	BMC を再起動する。
「ログ」タブ		
18	ログのダウンロード	サーバブレードのログの採取およびダウンロードを行う。

\*1: HA8000-bd は SVP をサポートしていないため、本機能もサポートしていません。

\*2: 機能は、“ceconsl” ユーザ（保守員作業用ユーザ）のみ使用可能です。

## □ 操作に必要なロール

Web コンソールでは、ユーザに割り当てられているロールに基づき、操作が制限されます。各ロールで行うことのできる操作は次のとおりです。

#	メニュー	ロールにより可能となる操作				
		Administrator	CE	Server Operation	Service Settings	User Account Management
「サーバ運用」タブ						
1	サーバ情報	全操作	全操作	全操作	情報表示のみ	情報表示のみ
2	電源および LED					
「サーバ設定」タブ						
3	言語設定	全操作	全操作	情報表示のみ	全操作	情報表示のみ
4	資産管理情報		なし			
5	ネットワーク設定		全操作			
6	サービス設定					
7	ユーザアカウント設定		なし	自身のアカウントの設定のみ	自身のアカウントの設定のみ	一般ユーザの表示および設定
8	IPMI Over LAN 設定		情報表示のみ	情報表示のみ	情報表示のみ	情報表示のみ
9	BMC 時刻設定		全操作	情報表示のみ	全操作	情報表示のみ
10	リモート KVM 設定					
11	SSL サーバ設定					
12	DNS クライアント設定					
13	SVP セットアップ *1	操作不可	操作不可	操作不可	操作不可	操作不可
「メンテナンス」タブ						
14	BMC ファームウェア管理	全操作	全操作	情報表示のみ	情報表示のみ	情報表示のみ
15	サーバ管理設定のバックアップ			なし	なし	なし
16	サーバ管理設定のリストア					
17	BMC 再起動	なし				
「ログ」タブ						
18	ログのダウンロード	全操作	全操作	全操作	なし	なし

\*1: HA8000-bd は SVP をサポートしていないため、本機能もサポートしていません。

・・・  
補足

「Remote Console」「Remote Media」ロールは Web コンソールの操作に影響しません。



# Web コンソールの設定項目

ここでは、Web コンソールの画面および設定項目について説明します。

## □ 「サーバ運用」 タブ

「サーバ運用」タブでは、サーバブレードの識別情報の参照や、リモート電源操作に関する設定を行うことができます。

### 「サーバ情報」画面

サーバブレードの識別情報を表示します。



#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	基本情報	<p>サーバ名 : 「<a href="#">資産管理情報</a>」画面 P.28 により設定された、サーバ名称を表示します。</p> <p>BMC IP アドレス : サーバブレードの BMC の IP アドレスを表示します。BMC の初期 IP アドレス設定は、<a href="#">工場出荷時設定</a> P.9 をご参照ください。BMC の IP アドレス変更は、<a href="#">ネットワークの設定</a> P.21 をご参照ください。</p> <p>BMC MAC アドレス : BMC の MAC アドレスを表示します。</p> <p>UUID : UUID を表示します。</p> <p>BMC F/W バージョン : BMC のファームウェアバージョンを表示します。</p> <p>EFI F/W バージョン : EFI のファームウェアバージョンを表示します。</p> <p>BMC の動作モード : BMC の動作モードを表示します。</p>
③	サーバ FRU 情報	<p>サーバブレードの製品情報を表示します。</p> <p>Product Name : サーバブレードの製品名称を表示します。</p> <p>Product Part/Module Number : (空欄)</p> <p>Product Version : サーバブレードのハードウェアバージョンを表示します。</p> <p>Product Serial Number : 04.01 (固定値)</p>

## 「電源および LED」画面

サーバブレードの電源状態を表示します。サーバブレードに対して電源 ON、電源 OFF、リセットのリモート制御を行います。また、サーバブレードの電源およびランプの状態を表示します。



#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	電源状態	現在のサーバブレードの電源状態を表示します。 OFF : 電源 OFF 状態です ON : 電源 ON 状態です OFF( 電源 ON 抑止中 ): 電源障害が発生したため電源 ON できない状態です。
③	[電源 ON] ボタン	サーバブレードの電源を ON にします。
④	[強制電源 OFF] ボタン	サーバブレードの電源を強制的に OFF にします。 なお、OS のシャットダウンは実施されません。通常の電源 OFF 操作は OS 画面からのシャットダウン、または JP1/ ServerConductor によるシャットダウンを行ってください。
⑤	[ハードリセット] ボタン	サーバブレードをハードウェアリセットします。 サーバブレードの電源が ON の状態で有効です。
⑥	[NMI] ボタン	NMI 割り込み信号を発行します。 OS の設定によりダンプ処理が起動されます。サーバブレードの電源が ON の状態で有効です。
⑦	LED 状態 *1	サーバブレードのランプの状態を表示します。 CALL LED STATUS LED

\*1: 「LED 状態」に表示される各ランプとサーバブレードのランプの対応は次のとおりです。

CALL LED : 識別ランプ

STATUS LED : エラーランプ

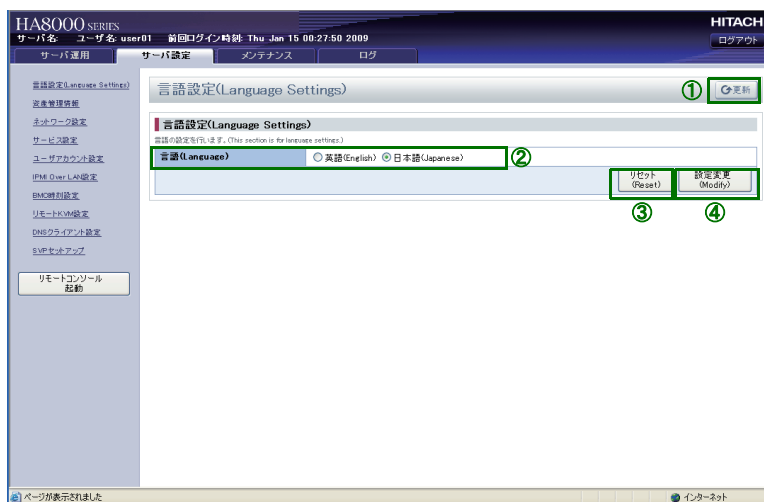
各ランプの詳細は、製品に添付されるマニュアルをご参照ください。

## □ 「サーバ設定」 タブ

「サーバ設定」タブでは、サーバブレードを管理するための機能の設定を行うことができます。

### 「言語設定」画面

Web コンソールの表示言語を設定します。



#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	言語設定	英語：Web コンソールの表示言語を英語に設定します。 日本語：Web コンソールの表示言語を日本語に設定します。
③	[リセット] ボタン	編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
④	[設定変更] ボタン	編集した内容を有効とし、確認画面に遷移します。

\*1: 工場出荷時は「日本語」に設定しています。

## 「資産管理情報」画面

サーバブレードの管理情報を設定することができます。



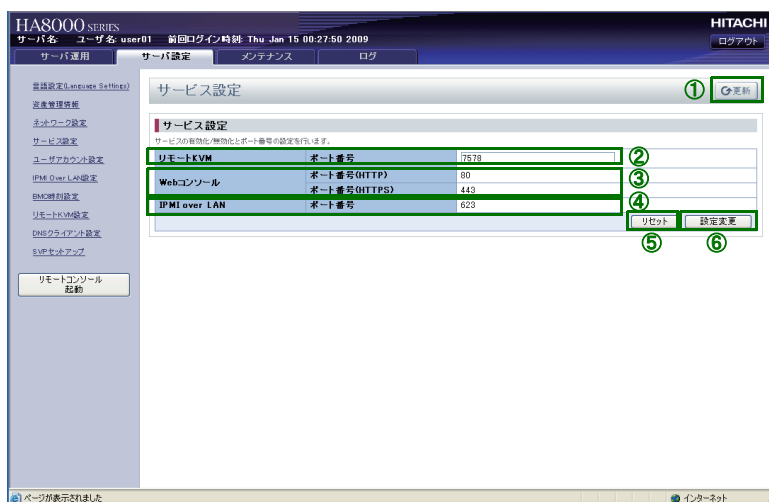
#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	サーバ名	サーバブレードの名称を設定します。 本設定の内容は画面左上の「サーバ名：」欄および、「サーバ運用」タブの「サーバ情報」画面に表示されます。
③	サーバ資産情報	文章を登録することができます。 サーバブレードの設置場所、管理者などの情報を記録するために使用できます。
④	[リセット] ボタン	編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
⑤	[設定変更] ボタン	編集した内容を有効とし、確認画面に遷移します。

## 「ネットワーク設定」画面

「Web コンソールによる初期設定」－「[ネットワークの設定](#)」P.21 をご参照ください。

## 「サービス設定」画面

サーバブレードの提供するサービスについて、有効／無効、使用するポート番号を設定します。



#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	リモート KVM	リモートコンソールアプリケーションがサーバブレードに接続する際に使用するポート番号を設定します。
③	Web コンソール	Web コンソール機能の使用する HTTP ポートおよび HTTPS ポートを表示します。
④	IPMI Over LAN *1	IPMI Over LAN 機能の使用するポート番号を表示します。
⑤	[リセット] ボタン	編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
⑥	[設定変更] ボタン	編集した内容を有効とし、確認画面に遷移します。

\*1: IPMI Over LAN 機能は、一部のコマンドに制限して使用可能としています。

「設定変更」ボタンをクリックすると、次の確認画面が表示されます。



## 「ユーザアカウント設定」画面

「Web コンソールによる初期設定」－「ユーザアカウントの設定」P.13 をご参照ください。

## 「IPMI Over LAN 設定」画面

IPMI Over LAN 機能を設定する権限が付与されている、ユーザーアカウントの IPMI Over LAN 機能の認証タイプを設定します。

#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	ユーザアカウント情報の再読み込み
②	選択	ユーザアカウント選択用ラジオボタン
③	ユーザ ID	ユーザアカウントの ID
④	状態	ユーザアカウントの有効／無効を表示
⑤	ユーザ名	ユーザアカウント名称
⑥	特権レベル	ユーザアカウントに付与されている特権レベルを表示
⑦	[編集] ボタン	「IPMI Over LAN ユーザーアカウントの編集」画面へ遷移します。ただし、ラジオボタンにチェックがついていない場合は遷移しません。
⑧	認証タイプ	各特権レベルの認証タイプを設定します。
⑨	[設定変更] ボタン	「認証タイプの編集（確認）」画面へ遷移します。

### 補足

ユーザ ID1 は工場出荷時に設定されています。設定値は次のとおりです。

ユーザ ID	状態	ユーザ名	パスワード	特権レベル
1	有効	(空白)	(非公開)	Administrator

ユーザ ID1 は状態の変更のみ可能です。

「編集」ボタンをクリックすると、「IPMI Over LAN ユーザーアカウントの編集」画面が表示されます。

#	項目名	説明
①	ユーザ ID	ユーザ ID を表示
②	状態 *1	ユーザアカウントの有効/無効を設定
③	ユーザ名 *2	ユーザアカウント名称 （最大 32 文字）
④	パスワード *2 *3	パスワードの入力（最大 16 文字）
⑤	パスワード（確認）*2	パスワードの再入力
⑥	特権レベル *2	特権レベルを設定
⑦	「戻る」ボタン	編集した内容を無効とし、ユーザアカウント一覧画面に戻ります。
⑧	「リセット」ボタン	編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
⑨	「設定変更」ボタン	編集した内容を有効とし、確認画面に遷移します。

\*1: 無効に設定した場合、「IPMI Over LAN 機能の設定」画面の「ユーザ名」および「特権レベル」が「N/A」と表示されます。

\*2: ユーザ ID1、2 は変更できません。

\*3: ユーザ ID8、9、10 は、パスワードに空白を設定することはできません。

「IPMI Over LAN ユーザーアカウントの編集」の「設定変更」ボタンをクリックすると、次の確認画面が表示されます。



IPMI Over LAN 機能の設定情報は、システム装置から電源コードを抜いても保持されます。

認証タイプを設定して「設定変更」ボタンをクリックすると、「認証タイプの編集（確認）」画面が表示されます。



## 「BMC 時刻設定」画面

「Web コンソールによる初期設定」－「[BMC 時刻の設定](#)」P.19 をご参照ください。

## 「リモート KVM 設定」画面

「Web コンソールによる初期設定」－「[リモートコンソールのマウスモードの設定](#)」P.18 をご参照ください。



## 「SSL サーバ設定」画面

SSL サーバ証明書の管理を行います。登録されているサーバ証明書の表示、自己署名サーバ証明書の作成、CSR の作成、サーバ証明書のインポートおよびサーバ証明書のダウンロードを行うことができます。

HA8000 SERIES  
サーバ名: ユーザ名: user01 前回ログイン時刻: Fri Jan 1 00:01:20 2010 HITACHI  
ログアウト

サーバ運用 サーバ設定 メンテナンス ログ

言語設定(Language Settings)  
障害管理情報  
ネットワーク設定  
サーバ設定  
ユーザアカウント設定  
IPMI Over LAN設定  
BMC設定  
リモートVM設定  
SSLサーバ設定  
DNSクライアント設定  
SVPセッティング  
リモートコンソール  
起動

### SSLサーバ設定

更新 ①

#### サーバ証明書の情報

登録されているサーバ証明書の情報を表示します。

バージョン	3
シリアル番号	55:05:4e:95:01:1e:25:9d
公開鍵アルゴリズム・鍵長	RSA(2048bit)
有効期間開始日	2010-01-01 00:00:39 UTC
有効期間終了日	1933-11-25 17:32:23 UTC
発行者	server
発行対象	server
SHA1 フingerprint	C9:6D:33:AE:BE:BA:F2:55:ED:BI:03:15:95:39:7F:DA:51:26:8B:F6

#### 自己署名証明書の作成

自己署名サーバ証明書を作成します。作成した証明書は、この画面からダウンロードできます。

公開鍵アルゴリズム・鍵長: ☒ RSA(2048bit) ☐ RSA(1024bit)

形式: ☐ PEM形式 ☐ DER形式

発行対象: 国名(C) 州・県名(ST) 都市・地域名(L) 組織名(O) 組織単位(OU) 一般名(CN) メールアドレス DN修飾子 姓 名 イニシャル

リセット 自己署名証明書の作成 ③ ④ ⑤

#### CSRの作成

CSRを作成します。作成したCSRは、この画面からダウンロードできます。

公開鍵アルゴリズム・鍵長: ☒ RSA(2048bit) ☐ RSA(1024bit)

形式: ☒ PEM形式 ☐ DER形式

発行対象: 国名(C) 州・県名(ST) 都市・地域名(L) 組織名(O) 組織単位(OU) 一般名(CN) メールアドレス DN修飾子 姓 名 イニシャル Unstructured Name チャレンジパスワード

リセット CSRの作成とダウンロード ⑦ ⑧

#### サーバ証明書のインポート

ダウンロードしたCSRから作成したサーバ証明書をインポートします。

形式: ☒ PEM形式 ☐ DER形式 ⑨

インポートする証明書 [参照] ⑩

サーバ証明書のインポート

#### サーバ証明書のダウンロード

登録されているサーバ証明書をダウンロードします。

形式: ☒ PEM形式 ☐ DER形式 ⑪

サーバ証明書のダウンロード ⑫

⑬ ページが表示されました

インターネット

#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	サーバ証明書の情報	<p>使用するサーバの証明書情報を表示します。</p> <p>バージョン : サーバ証明書のバージョンを表示します。</p> <p>シリアル番号 : シリアル番号を表示します。</p> <p>公開鍵アルゴリズム・鍵長 : 公開鍵アルゴリズム・鍵長の情報を表示します。</p> <p>有効期間開始日 : 有効期間の開始日を表示します。</p> <p>有効期間終了日 : 有効期間の終了日を表示します。</p> <p>発行者 : 一般名 (CN) の情報を表示します。</p> <p>発行対象 : 発行対象の情報を表示します。</p> <p>SHA1 Fingerprint : SHA1 フィンガープリントの情報を表示します。</p>
③	自己署名証明書の作成	<p>自己署名サーバ証明書の作成に必要な情報を入力します。</p> <p>入力項目は、公開鍵アルゴリズム・鍵長および次の項目となります。</p> <p>国名 (C) : 大文字アルファベット 2 文字を入力できます。</p> <p>州・県名 (ST)、都市・地域名 (L)、組織名 (O)、組織単位 (OU) : : 最大 60 文字の英数字、記号を入力できます。</p> <p>一般名 (CN) : 1 ~ 60 文字の英数字、- (ハイフン)、 、. (ピリオド) を指定できます。</p> <p>メールアドレス : 最大 60 文字の ASCII 文字列を入力できます。</p> <p>DN 修飾子、姓、名 : 最大 60 文字の英数字、記号を入力できます。</p> <p>イニシャル : 最大 30 文字の英数字、記号を入力できます。</p> <p>一般名 (CN) 以外の項目は省略可能です。</p> <p>州・県名 (ST)、都市・地域名 (L)、組織名 (O)、組織単位 (OU)、DN 修飾子、 姓、名、イニシャルに使用できる記号は次のとおりです。</p> <p>空白記号、' (アポストロフィ)、- (ハイフン)、, (カンマ)、= (イコール)、 / (スラッシュ)、() (括弧)、. (ピリオド)、: (コロン)、+ (プラス)、 ? (クエスション)</p>
④	[リセット] ボタン	③にて編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
⑤	[自己署名証明書の作成] ボタン	③にて編集した内容を有効とし、自己署名サーバ証明書を作成します。 ボタンを押すと確認画面に遷移します。
⑥	CSR の作成	<p>CSR の作成に必要な情報を入力します。入力項目は、③の項目および 以下となります。</p> <p>形式 : ダウンロードする CSR の形式を設定します。 「PEM 形式」または「DER 形式」を選択でき ます。</p> <p>Unstructured Name : 最大 60 文字の英数字、記号を入力できます。</p> <p>チャレンジパスワード : 最大 30 文字の英数字、記号を入力できます。</p> <p>Unstructured Name およびチャレンジパスワードは省略可能です。 これらの項目に使用できる記号は③に示したものと同一です。</p>
⑦	[リセット] ボタン	⑥にて編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
⑧	[CSR の作成とダウンロード] ボタン	⑥にて編集した内容を有効とし、CSR を作成します。 ボタンを押すと確認画面に遷移します。
⑨	サーバ証明書のインポート	<p>インポートするサーバ証明書を指定します。</p> <p>形式 : インポートしようとするサーバ証明書の形式を 設定します。「PEM 形式」または「DER 形式」 を選択できます。</p> <p>インポートする証明書 : サーバ証明書のファイルを指定します。</p>
⑩	[サーバ証明書のインポート] ボタン	⑨で指定したサーバ証明書のファイルをインポートします。ボタンを押すと確認画面に遷移します。
⑪	サーバ証明書のダウンロード	ダウンロードするサーバ証明書の形式を設定します。 「PEM 形式」または「DER 形式」を選択することができます。
⑫	[サーバ証明書のダウンロード] ボタン	登録されているサーバ証明書を⑪で指定された形式でダウンロードします。

HASORO SERIES  
サーバ名: ユーザー名: user@ 新羅白ウイング様 Fri Jan 1 01:28:26 2010

[サーバ運用](#) [サーバ設定](#) [メンテナンス](#) [ログ](#)

[言語設定\(Language Settings\)](#)  
[基本設定](#)  
[ネットワーク設定](#)  
[セキュリティ設定](#)  
[ユーザアカウント管理](#)  
[DNS/DHCPの設定](#)  
[SSH接続設定](#)  
[VPN・VPNクライアント](#)  
[SSL/TLSの設定](#)  
[GPG/GPGMEの設定](#)  
[S/MIMEの設定](#)

リモートコントロール  
起動

## SSLサーバ設定

**自己署名証明書の作成(確認)**

\*確認ボタンを押すと、以下の内容のサーバー証明書が生成されます。

バージョン	3
シリアル番号	14-00-01-00-00-00-00-00-00
公開鍵アルゴリズム=署名	RSA(2048bit)
有効期限開始日	2010-01-01 00:00:59 UTC
有効期限終了日	2020-01-01 00:00:59 UTC
発行者	一重名(CN) 国名(O) 州-県名(ST) 都府-地特名(L) 組織名(O) 組織単位(OU) 一重名(CN) メールアドレス DN附録子 姓 名 イニシャル
発行対象	1234

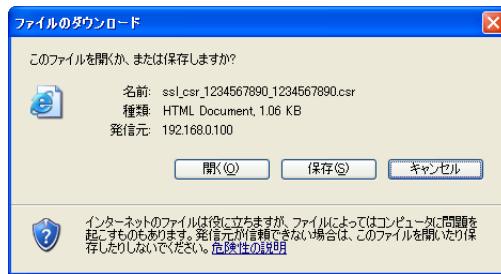
[戻る](#) [確認](#)

[確認] ボタンをクリックすると、自己証明書をサーバに登録して「SSL サーバ設定」画面に戻ります。

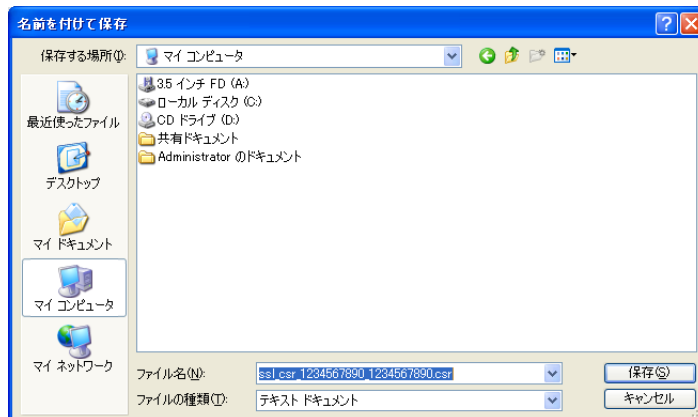
<b>HASEROO</b> SERIES		<b>HITACHI</b>
サーバ名:	ユーザ名: user@	新設ログイン暗証: Fri Jan 1 01:28:26 2010
<b>サーバ運用</b>	<b>サーバ設定</b>	<b>ログアウト</b>
<a href="#">戻る</a> <a href="#">リモートコンソール起動</a>		
<b>SSLサーバ設定</b>		
<b>CSRの作成(確認)</b>		
「確認」ボタンを押すと、以下の内容で生成されたCSRをダウンロードします。		
<b>公開鍵アルゴリズム-署名</b>		RSASSA-PSS
形式		PEM形式
	国名(C)	
	州・県名(ST)	
	市区・地域名(L)	
	組織名(O)	
	組織単位(OU)	
発行対象	一人名(CN)	1234
	メールアドレス	
	CN候補子	
	姓	
	名	
	イニシャル	
Unstructured Name		
チャレンジパスワード		
		<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="確認"/>

[確認] ボタンをクリックすると作成したCSRをダウンロードして「SSLサーバ設定」画面に戻ります。

「サーバ証明書のダウンロード」ボタンをクリックすると、次画面が表示されますので、「保存ボタン」をクリックします。



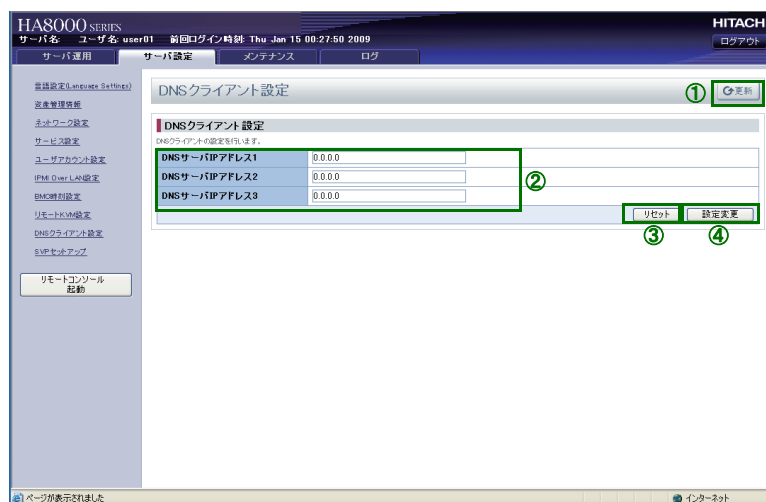
次の画面が表示されますので、保存先を選択したあと「保存」ボタンをクリックします。



サーバ証明書が保存され「ダウンロードの完了」画面が表示されますので、「閉じる」ボタンをクリックします。

## 「DNS クライアント設定」画面

DNS サーバの IP アドレスを設定し、DNS を使用して名前解決をさせることができます。  
DNS サーバの IP アドレスは 3 つまで設定できます。



#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	DNS サーバ IP アドレス 1 ～ 3	DNS サーバの IP アドレスを入力します。 DNS サーバの IP アドレスは 3 つまで設定でき、上のものから順に使用されます。2 番目、3 番目の DNS サーバを設定しない場合、"0.0.0.0" を入力してください。 DNS を使用しない場合、3 つとも "0.0.0.0" に設定してください。
③	[リセット] ボタン	編集した内容を無効とし、編集前の状態に戻します。
④	[設定変更] ボタン	編集した内容を有効とし、確認画面に遷移します。

## 「SVP セットアップ」画面

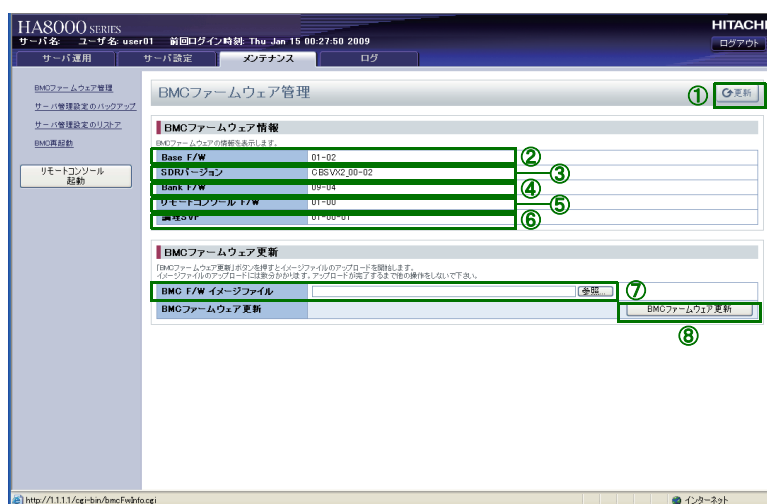
HA8000-bd は SVP をサポートしていないため、本画面の設定は変更しないでください。  
BMC が正常に動作しなくなる場合があります。

## □ 「メンテナンス」 タブ

「メンテナンス」タブでは、ファームウェアの更新、ファームウェアで管理しているデータのバックアップ、リストアおよび BMC の再起動を行います。

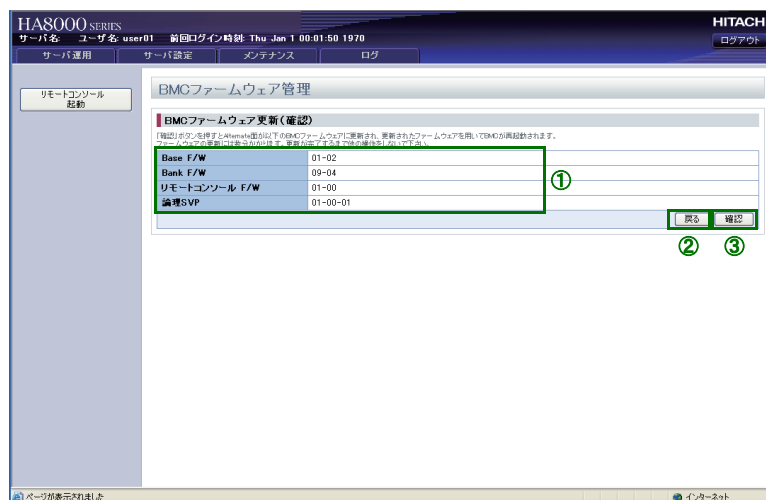
### 「BMC ファームウェア管理」画面

BMC ファームウェアの情報表示および更新を行います。



#	項目名	説明
①	[更新] ボタン	情報の表示を更新します。
②	Base F/W	ベースファームウェアのバージョンを表示します。
③	SDR バージョン	SDR のバージョンを表示します。
④	Bank F/W	ファームウェアのバージョンを表示します。
⑤	リモートコンソール F/W	リモートコンソール機能のバージョンを表示します。
⑥	論理 SVP	論理 SVP 機能のバージョンを表示します。
⑦	BMC F/W イメージファイル	アップロードする BMC ファームウェアイメージファイルを指定します。
⑧	[BMC ファームウェア更新] ボタン	指定したイメージファイルをアップロードします。アップロードには数分かかります。アップロード後、確認画面に切り替わります。

BMC F/W イメージファイルを指定したあと「BMC ファームウェア更新」ボタンをクリックすると、次の確認画面が表示されます。



#	項目名	説明
①	Base F/W Bank F/W リモートコンソール F/W 論理 SVP	アップロードしたイメージファイルに含まれる BMC ファームウェアの情報を表示します。
②	「戻る」ボタン	アップロードしたイメージファイルを破棄し、元の画面に戻ります。
③	「確認」ボタン	アップロードしたイメージファイルを書き込みます。書き込みには数分かかります。書き込み終了後、BMC が再起動されます。

「確認」ボタンをクリックすると BMC F/W イメージファイルの書き込みが行われます。

書き込みが完了すると BMC が再起動されるため、Web コンソールからログアウトされ、サーバブレードとの接続が切断されます。



BMC ファームウェアのアップデート後、BMC が再起動されます。

BMC ファームウェアをアップデートしたあと、再起動が終了（サーバブレードの STATUS LED が消灯）するまでは、システム装置への AC 供給を遮断しないでください。STATUS LED の点灯が終了してから、サーバブレードの電源を切ってください。

・・・  
補足

BMC の再起動により、Web コンソール、リモートコンソール機能は停止し、これらのサービスへの接続は切断されます。

なお、BMC が再起動している間（30 秒から 60 秒）は、上記サービスは再開できません。

サーバブレードがサポートしていない BMC F/W イメージファイルを指定した場合、イメージファイルの書き込みは行いません。また BMC も再起動されません。

Web コンソールから BMC ファームウェアのアップデートを行った場合、Web コンソールの各設定項目の設定値はアップデート前から変更されません。



## 「サーバ管理設定のバックアップ」画面

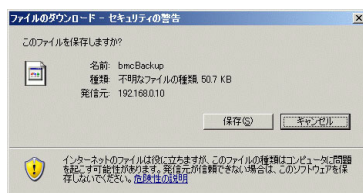
サーバブレードの管理のために使用する設定のバックアップを行います。

Web コンソールの設定を変更した場合は忘れずにバックアップを行ってください。

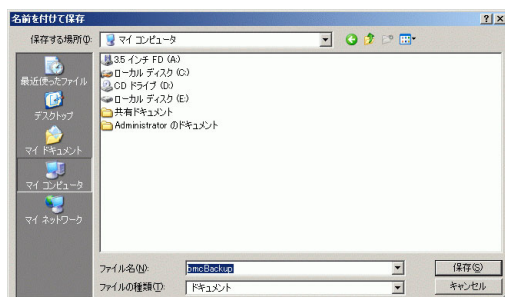


#	項目名	説明
①	「バックアップデータの作成とダウンロード」ボタン	バックアップデータファイルを作成し、ダウンロードします。

「バックアップデータの作成とダウンロード」ボタンをクリックすると次の画面が表示されますので、「保存」ボタンをクリックします。



次の画面が表示されますので、保存先を選択したあと「保存」ボタンをクリックします。

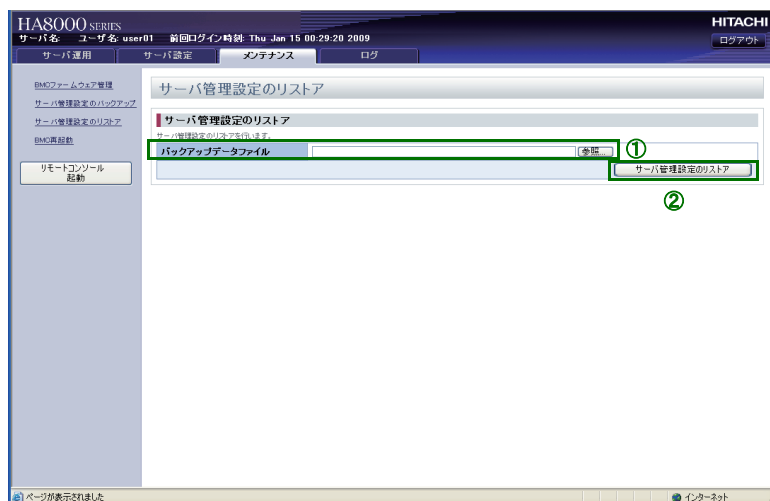


バックアップデータが保存され、「ダウンロードの完了」画面が表示されますので、「閉じる」ボタンをクリックします。

## サーバ管理設定のリストア画面

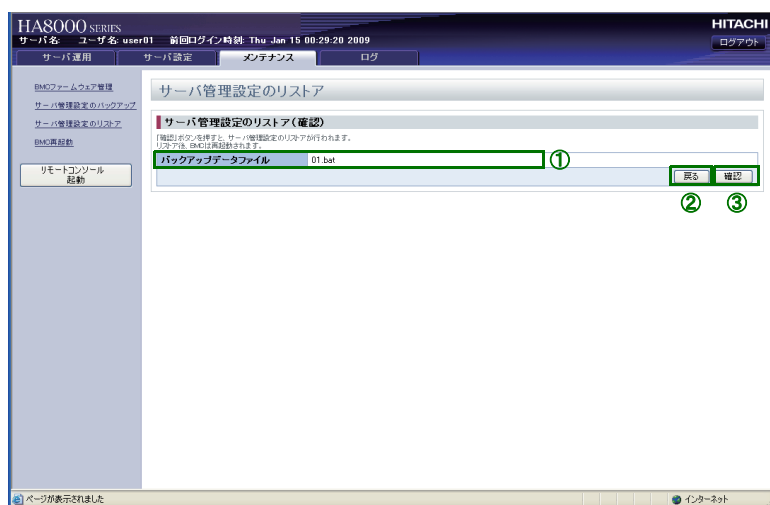
「サーバ管理設定のバックアップ」画面でダウンロードしたバックアップデータファイルを使用して設定を復元します。

復元後、BMC の再起動を行う必要があります。



#	項目名	説明
①	バックアップデータファイル	「サーバ管理設定のバックアップ」画面でダウンロードしたバックアップデータファイルを指定します。
②	「サーバ管理設定のリストア」ボタン	指定したバックアップデータファイルをアップロードし、確認画面に遷移します。

「サーバ管理設定のリストア」ボタンをクリックすると、次の確認画面が表示されます。



#	項目名	説明
①	バックアップデータファイル	アップロードしたバックアップデータファイルのファイル名を表示します。
②	[戻る] ボタン	アップロードしたバックアップデータファイルを破棄し、元の画面に戻ります。
③	[確認] ボタン	アップロードしたバックアップデータファイルを用いて設定を復元します。設定を復元したあとで BMC が再起動されます。

[確認] ボタンをクリックすると設定の復元が行われ、BMC が再起動されるため、Web コンソールからログアウトされ、サーバブレードとの接続が切断されます。



再起動が終了（サーバブレードの STATUS LED が消灯）するまでは、システム装置への AC 供給を遮断しないでください。

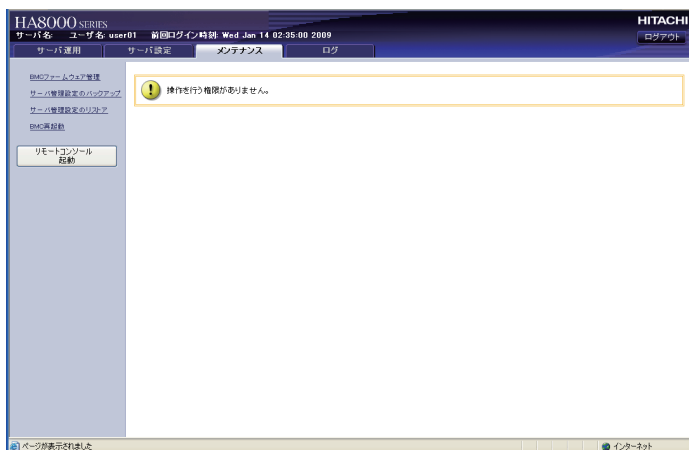
STATUS LED の点灯が終了してから、サーバブレードの電源を切ってください。

補足

BMC の再起動により、Web コンソール、リモートコンソール機能は停止し、これらのサービスへの接続は切断されます。  
 なお、BMC が再起動している間（30 秒から 60 秒）は、上記サービスは再開できません。

## 「BMC 再起動」画面

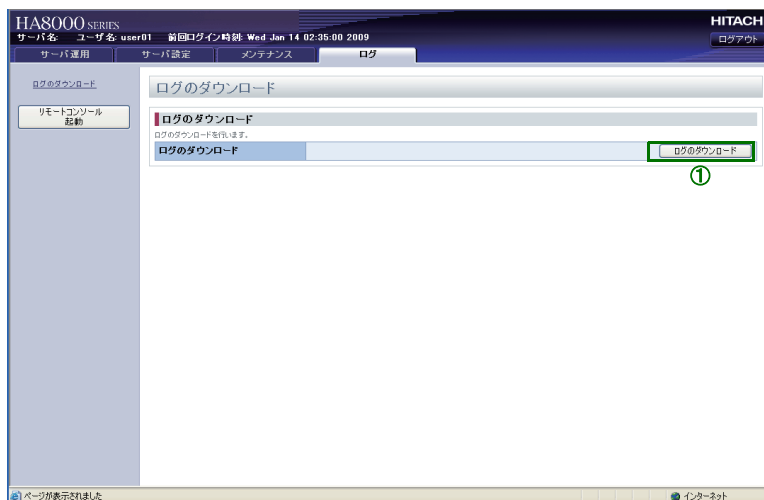
本画面は“ceconsl”ユーザ（保守員作業用ユーザ）のみ使用可能です。権限のないユーザでは使用できません。



## □ 「ログ」 タブ

「ログ」タブでは、BMC が採取したログをダウンロードすることができます。

### 「ログのダウンロード」画面



#	項目名	説明
①	「ログのダウンロード」ボタン	BMC が採取したログをダウンロードします。



制限

Internet Explorer8 を使用し、インターネットに接続していない環境で「ログのダウンロード」を実行した場合、ダウンロードに時間がかかることがあります。

Internet Explorer8 の Smart Screen フィルタ機能を無効に設定することで改善されることがあります。



補足

本ログは、ハードウェアの障害調査時に使用します。  
通常の運用では、ログを採取する必要はありません

---

日立エントリーブレードサーバ HA8000-bd シリーズ

## Web コンソール 操作ガイド

HA8000-bd/BD10X2

初 版 2012 年 2 月

第 2 版 2013 年 4 月

無断転載を禁止します。

---

---

---

 株式会社 日立製作所

ITプラットフォーム事業本部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

---

---

<http://www.hitachi.co.jp>